

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1291600094		
法人名	社会福祉法人 豊立会		
事業所名	グループホームまんだぎの家 玲光苑		
所在地	千葉県成田市松崎259		
自己評価作成日	平成23年 9月10日	評価結果市町村受理日	平成23年11月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do">http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成23年9月21日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ご利用者様がそれぞれの役割を持って、家族的な環境の下で、日常生活を送ることができるように、ご利用者様の希望や体調に合わせて、自由に食事や入浴の時間を変更しております。一人ひとりの生活のリズムに合わせて、運動したり、外に出かけたりと、毎日が漫然かつ画一的なものにならないように配慮しております。また、入所されたことで、社会との関わりが薄くならないように、地域の催し物に積極的に参加したり、ボランティアの慰問の受け入れや、小学生や高校生との交流を図っております。ご本人が持っている残存能力を維持継続できるように、得意としていることを毎日の日課として取り入れて支援しております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「グループホーム まんだぎの家 玲光苑」は、23年度4月より小規模多機能型居宅介護施設の2階に開設された。施設は、のどかな住宅地の中にあり、その環境を活かし、地域住民との交流を深めながら、地域に根差した施設運営に取り組んでいる。また、法人内の他サービスや併設施設との連携が密に図られており、入居者のニーズや要望に合わせた柔軟な支援が可能となっており、入居者・家族が安心して生活できるよう努めている。職員は認知症を深く理解し、言葉使いや対応を一人ひとり工夫しており、利用者の尊厳を大切にケアの実践に努めている。法人内では、機能訓練士や嘱託医による研修等が行われている他、内部研修の充実化を図っており、適切な人材育成に力を入れている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1.その人らしさの支援、2.普段の暮らしの継続の支援、3.地域からの信頼を理念に掲げ、地域でその人らしく暮らせる為の支援を掲げている。また、法人の理念を毎朝唱和し、スタッフの意識の共有を図っている。	「愛情・尊敬・信頼」と言う、その人らしい生活・地域との関わり等を主眼とした理念を掲げている。理念を事業所の目立つ場所に掲げ、職員・来訪者等へ周知していると共に、毎日唱和を行い、職員への周知徹底を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域活動に積極的に参加している。地域の祭りや地区社協の催しに参加したり、学校との交流も行っている。	日頃から地域住民とは、挨拶を交わす関係が築かれている。随時、地域からの見学・来訪・相談等を受け付けており、地域に根差した施設運営がなされている。地域の祭礼行事等の地域行事には積極的に参加し、地域との交流を深めている。その他にも、地域の高校の園芸科の生徒による植栽や小学生へ認知症研修を行う等、様々な交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年の11月に認知症サポーター養成講座を実施予定。地域の小学生とその家族を対象に実施されます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者とその家族、区長、民生委員、地区社協、高齢者福祉課、介護保険課、地域包括支援センターの担当者に参加していただき、利用状況、スライドショーによる活動報告を行い、話し合いを行っている。会議録で職員に内容を伝えている。	市役所職員・地域包括支援センター職員・地域区長・民生委員・入居者・家族・職員等を構成員として、年に3回、併設の小規模多機能型施設と合同で運営推進会議を開催している。会議では、施設の活動報告をスライドショーで紹介しており、より詳細な報告を通じて施設の理解促進を図ると共に、意見・情報交換を行い、施設サービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、活動の様子、実績を伝えると共に、よりよいサービスの為の相談、不明な点の確認等で随時市の担当者と連絡を取り助言を頂いている。又、入退去者情報を市へ報告している。	日頃から市に対して、報告・相談等を随時行っており、連携を図っている。市主催の研修会が行われており、参加をしていると共に、地域の福祉祭りにて、市と合同で事業PRを行う等、協力関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行った実績は無く、日頃から身体拘束にならないように意識し、対応している。玄関は施錠していません。	身体拘束排除における施設方・マニュアルを整備していると共に、研修を開催しており、身体拘束を行わないケアの実践に努めている。利用者の身体状況の変化に応じて、職員全員で検討をしており、身体拘束を行わずに、その人らしい生活を送れるよう工夫している。	

【千葉県】グループホーム まんざきの家 玲光苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴または更衣の際に、不審な内出血や外傷がないか観察を行っている。又、家族との外出や外泊後も同様の変化がないかどうか脱衣時に確認を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市で行われた成年後見制度についての研修に参加し、学ぶことが出来たが、該当者がおらず、理解を深めるには至らなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービス導入前に、出来るだけ見学をしていただき、理念、サービス内容、料金、緊急時の対応等を説明し、十分な理解と納得をして頂いてから、契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者に食事やおやつアンケートを行って実施した。又、電話や面会時に現状を報告し、ご家族の意見を取り入れて実施しました。	家族の訪問時に直接意見や要望等を確認している。出来る限り多く話し合いの機会を設けるように努め、ケア方針や意向が確認できるよう努めている。また、入居者の変化や必要時には、家族に対し、その都度連絡・報告を重ね、信頼関係の構築に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議や相談員会議、法人全体の運営会議で話し合いの場を設け、意見の反映を図っている。	定期的に会議を開催し、職員からの意見・提案等を確認している。また、管理者が個別に相談に乗り、職員の意見や思い等を確認している。法人内にて作業療法士や嘱託医による研修が実施されており、適切な人材育成が図られている。行事等の企画が進められている他、現場の声を基に介護計画の作成を行う等、職員の積極性を大切に運営がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を実施し、「目標設定表」の作成及び面接を実施して、各自の状況を把握し、上記の会議の場を活用して環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップの為に、まんざきの家での介護研修を実施すると共に、法人で実施する新人・中堅・ミドルリーダー研修及び全体研修の参加や外部研修への参加を進めている。		

【千葉県】グループホーム まんざきの家 玲光苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の研修の場や外部研修の参加の中で、交流を図っている。又、グループホーム連絡会に参加し、情報交換を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前には、出来る限り利用者本人に見学をしていただき、不安なことやわからないことがないように、聞き取り説明し、安心してサービスにつながられるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前には、家族から生活状況や身体状況、様々な介護の困難さをじっくりと聴くようにしている。また、利用には至らなくても必要時には、直ちに連絡が取れるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	様々な視点からアセスメントを行い、本人が望んでいる生活とご家族が望まれている生活を理解し、可能な限り要望に答えられるように努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬の気持ちを持ち、個々の生活歴や、出来ることや出来ないこと、得意なことを把握し、暮らしの中でその能力を発揮できるように支援している。介護する側、される側という関係にならないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会で触れ合っていただく機会を増やしていただけるようお願いをしたり、時々、住み慣れたご自宅にてご家族と共に過ごしていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	顔馴染みのボランティアの方達との交流や、地域の祭りに出かけていたり、ご自宅付近の公園やお店に買い物に出かけたりしている。	日頃から地域の商店・公園・公民館等を利用していると共に、地域の祭り等へ参加し、入居者の馴染みある場所への外出が行われている。また、施設を介し、地域の学校や住民との交流が行われており、馴染みの関係が築けるよう配慮している。	

【千葉県】グループホーム まんざきの家 玲光苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々のADLに合わせて座席を配慮し、お互いにコミュニケーションが取れるように職員が間に入り、会話をつなげたり、声かけを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養入所後に他のご利用者と共に面会に行ったり、ご家族との電話のやり取りにて環境が変わってしまったことによる不安などの相談や支援を行った。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活歴、習慣、今後の意向の聞き取りを大切にしている。声かけを多く行い、言葉や表情から心情を察したり、意思の把握に努めている。	契約時に本人・家族の意向・身体状況等を確認しており、記録している。契約後は、日頃のコミュニケーションから本人・家族の意向・ニーズ・思い等を確認している。確認した情報は、連絡ノートを活用しながら、全職員へ周知し、一人ひとりの思いを大切に支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの時や日々のコミュニケーションを重ねることで、生活習慣やリズム、価値観を把握し、サービスに活かせるように努めている。回想法や昔の暮らしや遊びなど自然な会話の中で、情報収集をし、把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の会話や表情、バイタルなどを参考にし、常に心身の現状把握に努めている。又、ケース記録や申し送りにて、1日の過ごし方に注意を払っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のケース検討、必要時にご家族、関係者とカンファレンスを行って、職員全体で介護計画に反映させるようにしている。	本人・家族の意向を基に、職員全員で検討し、介護計画を作成している。定期的に目標の達成状況の確認や介護計画の評価を行い、必要に応じて見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケース記録、特記事項はケース記録と連絡ノートを活用し、情報共有に努めている。又、モニタリング、介護計画に情報を活かすようにしている。		

【千葉県】グループホーム まんざきの家 玲光苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入浴日は決めず、入りたい時や必要な時に入浴を支援している。又、小規模の方との交流を望まれたり、買い物や外出など臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	顔馴染みのボランティアの方達との交流を続け、楽しみを持ち続けられるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はかかりつけ医へご家族と共に受診をされている。急変時などの場合は、協力病院と迅速に連携がとれる体制を整えている。	医療機関への受診は家族対応としているが、希望に応じて、職員が受診の付き添いを支援している。また、併設の小規模多機能型施設の常勤看護師職員と連携し、適切な健康管理がなされている。緊急時や急変時においては、協力医療機関への搬送が可能となっており、適切な連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝と必要時にバイタル測定を行っている。服薬管理、入浴時には必要な処置や状態の観察など情報を共有し、受診が必要な時は家族へ伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された方はおりませんが、状態が良くない方の様子を受診する前に問い合わせを行い、受診の必要性の有無やアドバイスを頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合などは、特養へつなげたり、終末期のあり方については、老衰による苑や自宅での看取りまたは、協力病院での対応ができることを伝えている。	終末期においては、家族と検討を重ね、意向に応じて、宿泊や訪問の調整を図る他、医療機関や他施設への切り替え等を行い、利用者の現状に即した連携が図られている。必要に応じて、法人内の他サービスとも連携をし、柔軟な支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、事業所に掲示している。急変、発熱時等は、頻回にバイタル測定を行い、必要に応じてクーリングを行っている。また、受診が必要な場合は家族へ連絡を入れ、主治医か協力病院へ速やかに受診を行っている。		

【千葉県】グループホーム まんざきの家 玲光苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年3回利用者参加で、避難訓練を行っている。	非常災害におけるマニュアルを整備すると共に、火災報知機・スプリンクラー・自動通報装置等の設備も設置されている。施設では、年3回、併設の小規模多機能型施設と合同で消防訓練が実施されている。訓練では、夜間想定等、様々な想定で訓練が行われており、職員・入居者が適切な避難方法を身に付けている。地域に対しては、日頃の交流の中で緊急時・災害時における協力を呼び掛けている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人理念である愛情・尊敬・信頼の気持ちを常に持ち、プライドを傷つけない声かけと対応をしている。個人ファイルは保管場所を決めて、外部に持ち出さないようにしている。自分がされたい介護、されたくない介護を常に意識している。	理念に、「尊厳」を掲げており、利用者のプライバシーに配慮したケアの実践を徹底している。接遇においては、認知症の理解を深めながら、入居者本位に検討し、一人ひとりに合わせた言葉使い・対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り声かけを多く行い、本人の思いや希望を聴くように心掛けている。言葉でうまく伝えられない方には、表情やしぐさで訴えが気付くように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間はある程度までは、ご本人にまかせております。1日の過ごすペースも一人ひとり違く、休みたい時には休まれたり、日課は決めないで、ご本人の希望を優先しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣介助を行う際は、ご本人に着たい服を選んでもらっています。月に2回近隣の美容師が訪れ、ご本人の希望に沿ったカットなどを行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の中で、出来る方には調理の下ごしらえや配膳、食器拭きなど職員と一緒にを行っています。手造りおやつの日には、ご利用者の希望を伺って、実施しております。	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備・片付け・調理等を共同で行っている。献立作成や食材の配送は業者に委託しているが、必要に応じて、キャンセルし、外食やバイキング形式等に変更し、入居者に食に対する楽しみを提供している。また、行事に合わせた手作りおやつ等も企画されており、様々な工夫がなされている。	

【千葉県】グループホーム まんざきの家 玲光苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれた献立で、一人ひとりのADLに合わせて形態を変えたり、補助具を使用している。ご自分では水分を摂られない方には、24時間チェック表にて水分摂取量を確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員がその能力に合わせて口腔洗浄、義歯洗浄、歯磨き等を行っている。自分でできない方は、職員が介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけて、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。落ち着きがなくなる、ソワソワする等の尿便意のサインを見逃さないように努めている。	排泄チェックリストを活用しながら個々の排泄パターンを把握し、適切な声掛け。誘導を行いながら排泄の自立を支援している。夜間においては、ポータブルトイレの活用やトイレ誘導により、適切な対応が図られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から、水分を多く摂ってもらったり、朝食後すぐのトイレ誘導を心掛けている。運動、食事の重要性を認識し、適度な運動の継続とバランスのとれた食事摂取ができるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間はご本人の希望を優先している。必要に応じて毎日入浴されたり、2～3日に1度入られたり、人それぞれの対応をしている。また、入浴されない日は、寝る前に足浴を実施している。	毎日入浴を実施しており、独自の入浴チェック表により、入浴の機会が適切に確保できるよう工夫している。また、必要に応じて、部分浴・シャワー浴・清拭を実施し、入居者の清潔保持に努めている。一人ひとりの性格を理解した上で、声掛けや誘導を工夫し、楽しく入浴できるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの生活習慣やその日の体調、ご本人の希望に沿って、就寝時間や室温を決めてもらっています。ちょっとした休息には、ソファにて足を挙上して休まれたり、身体に負担がかからないように努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の情報をファイルしている。一人ひとりの薬をケースに仕分けし、日付と名前を確認してから、誤薬が無いように服薬介助を行っている。確実な服薬が出来たかどうか、口に含む際、服薬後も口腔内や状態の変化を観察している。		

【千葉県】グループホーム まんざきの家 玲光苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味、得意なことを聞き取り、一人ひとりの個性を大切にしている。ピアノを弾いてもらったり、家事を一緒に手伝ってもらっている。また、裏庭にて畑をつくり、収穫を一緒に行えた。。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、近隣周辺の散歩や四季折々の花の見学ドライブに出かけた。外食に出かけたり、個人的な買い物に出かけたり、個々の希望を伺い対応している。又、各地域のお祭りに積極的に参加しました。	日頃から散歩・買い物・ドライブ等の外出支援が行われていると共に、裏庭や敷地内を活用し、気軽に外の空気を楽しめるようになっている。また、定期的に味覚狩り等の行事を企画している他、併設の小規模多機能型施設との交流も図られており、合同行事や日頃の行き来等、入居者の生活の活性化が図られている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持参している事で、不安が解消される方については、ご家族と相談の上、ドラブルの無いように配慮し、自己管理されている。買い物には、ご本人を連れて介助を交えながらも買い物を楽しまれました。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要時、ご本人が電話をかけたいとの希望があった場合には、プライバシーが配慮された部屋で、電話がかけられるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が作った季節に応じた制作物を壁面に飾ったり、季節の花をテーブルに飾り季節感を楽しまれました。夏にはグリーンカーテンを育てたり、各部屋が均等な室温になるように温度調整を行いました。	施設内は、全面バリアフリーで介助スペースも確保されており、利用者の安全面に配慮した造りとなっている。また、随所の窓からは、緑が広がり、開放的な景色を楽しむ事ができる。リビングには、テーブル・椅子が設置され、入居者が自由にくつろぐ事が可能となっている。倉庫や物置が設置され、適切に収納する事で、利用者の導線の安全確保・スペースの有効活用がなされている。	

【千葉県】グループホーム まんざきの家 玲光苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	静かな環境を好む方や、ご家族とゆっくりと話がしたい方には、居室とは別に落ち着ける空間がある。また、気の合った方同士で同じテーブルに座っていただき、楽しくすごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使い慣れた家具や寝具を持ち込まれ、可能な限りご自宅のお部屋と同じ環境になるように配慮しております。	入居者の馴染みの物を自由に持ち込む事が可能となっており、快適に生活できるよう配慮している。また、畳に布団を敷く事も可能となっており、入居者の生活歴に合わせた居室作りがなされている。全居室に鍵が設置されており、プライバシーの確保がなされていると共に、エアコン・換気扇が設置されており、適切な空調管理がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室には手すりを取り付けて、安全確保及び自立への配慮をしている。トイレの場所は目でわかるようにしたり、ご自分の居室には、名前プレートをかけ、間違えないようにしております。		